

## 4-2 メンバー国との協力プロジェクト

### 4-2-3 フィリピン緊急時救援物資供給マネジメント研修プロジェクト

#### 1) 実施機関

共催：WHO 西太平洋事務所、フィリピン国家防災会議事務局  
アジア防災センター、国連人道問題調整事務所神戸

#### 2) 趣旨

フィリピンでは、1991年のピナツボ火山噴火(死者約900人)など大規模災害時の教訓の一つとして、効果的な人道支援や救援物資の供給の手法がなかったことによる救援・支援活動の混乱があげられる。これら大災害時には、国内外からの様々な救援物資や援助金が、必要とされる場所や人に届かないという状況が数多く生じている。

このような教訓を踏まえて、フィリピン国家防災会議事務局は災害対応上の課題を解消するため、国家防災会議の構成機関間で覚書を交わし、国際人道援助ネットワーク(International Humanitarian Assistance Network)を組織し、海外からの救援チームおよび援助物資の受入や活動を促進している。

しかしながら、大規模災害の被災時には、保健分野などでの緊急時物資供給が効率的に管理されていない状況にある。

こういった背景のもと、WHOが開発し、特に南米地域で成功を収めている緊急時救援物資供給マネジメントシステム(SUMA: SUPPLY MANAGEMENT SYSTEM)をフィリピン国内での救援物資供給システムとして導入すべく、WHO西太平洋事務所(マニラ)とともに国内の防災関係者を集め、5日間の研修を行った。



図 4-2-3-1 WHO フィリピン代表 Dr. Jean Marc Olive の講演

3) 期 間

2003年10月20日～24日

4) 参加者

フィリピン政府（保健省、社会福祉開発省、国家防災会議事務局、国防省）、フィリピン赤十字社、税関局、国連開発計画、NGO、東チモール政府など 33名

5) 内 容

当研修は、災害時の緊急対応を行う政府関係機関やNGOが、

- ・ 救援物資供給マネジメントシステムのソフトウェア運用技術
- ・ 総合的な供給物資管理の手法

についての、知識と技術を得ることを目的として、下記プログラムによる研修を行った。

第1日：10月20日

1. 総合的な防災政策アプローチ  
アジア防災センター所長 西川 智
2. フィリピンにおける人道的供給システムの現状  
WHO フィリピン代表 Dr. Jean Marc Olive
3. OCHA の機構と災害対応準備と災害対応の活動  
OCHA神戸人道問題担当 泉 貴子
4. オープンフォーラム
5. 緊急時救援物資供給マネジメントシステム（SUMA）の概要
6. SUMA オペレーション（本部およびフィールドでのプログラム運用演習）  
FUNDESUMA コンサルタント Ardi Voets

第2日：10月21日

1. SUMA オペレーション（本部およびフィールドでのプログラム運用演習）  
FUNDESUMA コンサルタント Ardi Voets

第3日：10月22日

1. 救援物資供給時の総合的なロジスティック・マネジメント  
（救援物資のロジスティック・チェーン）  
FUNDESUMA コンサルタント Gerardo Quiros Cuadra

第4日：10月23日

1. SUMA オペレーション（倉庫管理プログラム演習）  
FUNDESUMA コンサルタント Ardi Voets

第5日：10月23日

1. フィールド演習（税関倉庫、フィリピン赤十字社倉庫、国家防災センター倉庫を視察）
2. ラップアップおよび参加者からの提言

#### 6) 参加者からの提言

- ・ 長期的に SUMA を活用・開発していくため、コース終了後も定期的な会合が必要
- ・ 効果的な緊急時救援物資供給のため、海外からの救援物資がスムーズに入管手続きを取れるよう国家防災会議事務局と税関局の間で覚書が必要
- ・ 各国での SUMA 活用による成功事例を講義に入れるべき
- ・ 国レベル、地域レベルで SUMA を普及していくべき。



図 4-2-3-2 セミナーの参加者



図 4-2-3-3 アジア防災センター西川所長の講義



図 4-2-3-4 SUMA プログラム演習の様様



図 4-2-3-5 フィールド演習の様様

物資供給マネジメント(SUMA)および人道援助物資物流マネジメントについての研修が、2003年10月20～24日、マニラのベイビューパークホテルで、世界保健機関(WHO)、アジア防災センター(ADRC)および国家防災会議(NDCC)の協力の下に行われた。

この種の研修は、フィリピンおよび東南アジアでは初めてであり、国の能力を強化して援助物資を効果的に管理し、それらの物資を適切かつ無理のない方法で被災者に届けることによって人道支援のマネジメントを改善するのがねらいであった。

研修には、フィリピン、日本および東チモールの様々な政府および非政府機関から合計34名が参加した。内訳は、保健省5名、社会福祉開発省4名、民間防衛局5名、フィリピン軍3名、フィリピン国立赤十字社2名、Save the Children US 2名、Kadtuntaya 基金1名、Bangsamoro 開発庁1名、Mindanao Tulong Bakwet 社1名、GMA Kapuso 基金1名、関税局2名、国連開発プログラム1名、アジア防災センター2名、UN-OCHA 1名、および東チモール国家災害管理局(NDMO)2名である。

### 1) オリエンテーション

Save the Children US の Mel Capistrano 博士の司会で、参加者の紹介、研修への期待事項の確認、ホストチームの構成と生活ルールの説明および覚書の調印が行われた。

### 2) 開会式

開会式は、保健省次官 Margarita Galon 閣下を初めとして、WHO フィリピン代表 Jean Marc Olive 博士、および ADRC 所長西川智氏の臨席の下に荘重に執り行われた。民間防衛局の Melchor P Rosales 局長に代わって、同局次官の Elma Aldea 大佐が開会の辞を述べた。DOH-HEMS ディレクターの Ladislao Yuchongco 博士が、来賓の紹介を行った。

このあと、SUMA 研修委員会委員の Camilla Habacon 博士が主体になって、研修コースの概要および構成ならびに事務局からの注意事項の説明が行われた。

### 3) コース内容

セッション1 – NDCC 協力局による人道物資供給マネジメントの展望

プレゼンテーション：

- ❖ ADRC 所長西川智氏による「総合的災害リスクマネジメントアプローチについて」
- ❖ WHO フィリピン代表 Jean Marc Olive 博士による「人道物資供給マネジメントの現状」

- ❖ UN-OCHA 人道問題担当官泉貴子氏による「OCHA の災害対策準備および対応の仕組みと活動」

#### セッション 2 – 人道物資供給マネジメント：SUMA アプローチ

このセッションは、FUNDESUMA の講師であるオランダの Ardi Voets 女史が提唱したものである。コンピューター数台を設置して、研修の技術面の指導が始まった。セッション 2 は、コースの 2 日目まで続いた。

#### 3 日目

##### セッション 3 – 人道物資の物流マネジメントの紹介

3 日目は、コスタリカの FUNDESUMA 講師 Gerardo Cuadra Quiros 氏による「人道物資の総物流マネジメント」の講義で始まった。

人道物資・寄付金または政府が救援目的で輸入した品目の処理に関するいくつかの問題を明らかにするために、関税局からゲストの講師が招かれた。関税局の法律顧問 James Enriquez 弁護士が、この目的についての通関手続きおよび規制事項について質疑応答を行った。同弁護士は、現在課税を免除されるのは DSWD および DepEd のみであることに注意してほしいと述べた。免除を必要とするその他の省庁はすべて、財務省に趣意書および関連文書を送付しなければならない。正式に承認された申請書は、関税局に送られ妥当性確認および発行の可否の検討が行われる。ただし、運搬費用または保管料が、税関倉庫内での滞貨日数に応じてかかってくる。この税関倉庫は、民間業者が管理している。

午後には、倉庫の理想的な配置についての研究会が開かれ、午後の後半に数グループが発表を行った。

#### 4 日目

##### セッション 4 – SUMA 倉庫マネジメント演習：実務への適用

各人のコンピューターで SUMA のソフトを使いながら、レッスン 7 – 12 を通じて、コースの技術面の研修が続けられた。

#### 5 日目

##### セッション 5 – 倉庫の見学

倉庫 3 箇所を丸 1 日かけて見学した。参加者は、午前 9:00 からマニラ港湾地区の税関倉庫をいくつか見学した。税関倉庫の見学に先立って、Adelina S. E. Molina 弁護士を表敬訪問した。参加者には、参考情報およびガイダンス用として贈与品目を入

力するためのフローチャートが配られた。

次の見学予定場所は、同じ区域内にある PNRC の倉庫であった。PNRC 担当官 Jelma de la Pena 女史が出席して、参加者の受入れが行われた。

参加者は、昼食後ホテルをチェックアウトして、最後の倉庫見学としてケソン市 Camp Aguinaldo の LOGCOM を訪れた。

#### 4) コースの評価およびまとめ

コースの評価およびまとめが、ケソン市 Camp Aguinaldo の NDMC オペレーションセンターで行われた。

#### 5) 閉会式

参加者および講師の中から選ばれた数名が感想を述べ、また WHO 太平洋地域事務所の Art Pesigan 博士が閉会の辞を述べて華々しく閉会した。参加者から、同時性、宗教的習慣および地域での適合性の問題について意見が交わされた。Ardi Voets 女史は、適切な参加者が派遣されたという意味でコースは成功したと考えられ、参加者の中には講師としての能力をもつ者もいるように思うと述べた。

#### 6) 技術セッション報告

Ayedee Domingo 博士を責任者とする現地の IT サポートグループが、技術セッションについて別途報告をまとめた。

---